

福山市老人大学 第45期 入学式 式辞

春爛漫の本日、羽田福山市長のご出席・小川市議会議長・吉岡市老連会長・池口元老大学長を始め多くのご来賓・講師の先生方のご臨席を賜り、大勢の老大学生の出席をいただき、福山市老人大学第45期入学式が盛大に挙行できますことを大変有難く嬉しく存じます。

今年度の老大学の学生数は2,693名、昨年度の2,638名より55名の増員となり、目標の2,700名をほぼ達成することが出来ました。新規学生は336名で昨年度の254名を82名上回り、この5年間の減少傾向に歯止めのかかる学生数となりました。英会話・カラオケ・茶道抹茶の3教科を新設するとともに、現役学生の皆さんが老大学の魅力を多くの方に伝えて、新規学生を勧誘して下さったお陰です。

今年度の老大学生の最高齢は男子95歳、女子94歳。90歳以上の方は男女それぞれ10名ずつの計20名です。平均年齢は男子74歳・女子73歳、男女比は男子35%・女子65%です。

各教科への応募状況の第一の特徴は、新設の英会話が定員40名に対して第一次募集の段階で135名という3倍以上の方が出願されたことです。急遽、講師にご無理をお願いし、もう1クラス増設して定員を80名に倍増しましたが、それでも55名の現役学生に不合格通知を送ることとなりました。

グローバル社会を生きるための大切なツールである英会話力を子ども達に身につけさせるために、今日では、小学校教育に英語活動が取り入れられています。高齢者の皆さんの英会話学習への意欲がこんなにも高いことに驚かせられました。競争率10倍を超えた以前のパソコン操作学習を彷彿とさせるものがあります。

カラオケは、4年間の短期講座の実績を踏まえて、定員80名ずつの普通科・研究科同時開設とし、更に定員を90名ずつに増やして、ご要望に添えるよう努めましたが、早々に定員に達しました。

茶道抹茶は、定員30名に対して27名、煎茶も24名の受講申請があり、日本文化の継承を標榜する老人大学の姿勢を堅持することが出来ました。

今年度の応募状況の第二の特徴は、パソコンとカラオケの短期講座を本講座に組み入れたことを受けて、本講座の受講可能教科数を従来の2教科から5教科に拡大したところ、複数教科受講の学生が、昨年度の132名から2倍近い253名に急増したことです。ここでも老大学生の学習意欲の高さに驚きました。

多くの高齢者に老人大学を選んでいただき、多くの老大学生が複数教科を受講くださることとなり、老大は活気に溢れ、学友の輪が一層広がります。

また、講師につきましては、昨年度末で4名が退任されましたが、今年度は新設教科を始めとする9教科に11名の新しい講師をお迎えいたしました。事務局職員も退任者2名の後任に新しく2名が赴任いたしました。幾つもの新風が吹きこまれることとなります。

この春休み期間を使って、エレベーター塔の校章のリニューアル、教室表示板の改定・駐車台数の増加・駐車ラインの引き直し・蛍光灯の総点検と修理・業者による外トイレ清掃・防火設備の点検と改善・そして先日の環境整備活動などの取り組みを福山市と学生会がそれぞれに行ってくださいました。

更に本日、この舞台上で披露させていただいておりますが、老人大学の新しい看板を講師代表

の藤井壽峰先生に文字を揮毫していただき、園芸科の先生が彫刻していただきましたので、応接室入口に掲げることにいたします。

多くの新規学生・新しい講師・事務局職員を迎えたことと幾つかの環境改善が行われたことを新年度の大学運営に活かしていかなければと思っています。

なお、限られたスペースの中で、工夫をしていかなければならないことがあります。車社会の今日、自家用車通学の学生がさらに増えて、多少の駐車スペースの拡大では、その混雑は到底、解消できません。この混雑がトラブルや事故に繋がっていかないよう学生の皆さんの協力が不可欠であります。

駐車場所や方法についての老生の決まりを守ってください。職員や駐車場係の指示には従ってください。今年度の交通安全スローガンである「思いやり運転」と「ゆとりある行動」に努めてください。

10月開催の学生祭の展示スペースや臨時駐車場についても、改善を図る必要があり、急ぎ具体案を検討いたします。

老生の皆さんは、単なる受講生や、ましてお客様などではありません。福山市・市老連・講師の先生方・先輩学生が尽力され、発展させてきた伝統ある老人大学の学生であり、主役であります。

進んで学習に取り組み、学級の運営に携わりましょう。学習の場としての校内秩序と環境を守りましょう。共に学ぶ者同士の友情を育み、更にその輪を広げましょう。学生会活動に参加し、提案と実践を行いましょ。クラブ活動やボランティア活動に取り組みましょ。

我が国は4人に1人が65歳以上という超高齢社会となり、高齢者に優しくない社会になることが懸念されます。

『健やかに・穏やかに・和やかに』過ごすことで事件・事故に巻き込まれることを防ぎ、社会の安定を図る」

「自分達で出来ることは自分達です」

「元気な高齢者は大いに地域のお世話やボランティア活動に取り組む」ことなどが求められています。

老人大学の日々の様子や老生の立ち居振る舞いは、ご近所の方や小学生の子ども達も注目しています。

「この歳まで生きてきて、もう怖いものはない」という方が居られます。現役時代のご苦労が偲ばれますが、高齢者がこれから長い人生を歩いていく現役世代や次世代への影響を配慮することは、人生の先達としての責務であります。

この1・2月に教育実習に訪れた若い看護学生の「私も高齢者になったら老生に通いたい」との憧れを裏切らない老生でありたいものです。

皆さんは、60歳以上の福山市民13万人余りの中の老生に通うことを選択された50人に1人の意欲溢れる高齢者です。

その意欲を日常生活の充実と我が町福山の発展につなげることを目指した大学運営を進めていく決意を申し述べ、第45期入学式の式辞といたします。

2015年(平成27年)4月7日

福山市老人大学 学長 高橋 和男